

大学で発酵工学を研究していたこともあり、今までにない物を作りた

## 女性管理職が語る

# チームの成長自分も育てる

工場への転勤が決まりました。家族との生活を優先したいという思いと、私の根底にあります。それを自分だけでなく、より多くの仲間と共有したい、今までの経験で貢献したい、恩返ししたいと思うようになりました。

い、自分の手で開発したいという希望がありました。とはいえ、理系出身でも女性はまだまだ助手的な仕事が多かった時代です。そのなかでP&Gは男女関係なく挑戦でき、能力に応じて評価してもらええる企業だと思っ

て入社しました。国籍や性別に関係なく、グローバルな環境で働く楽しさにつらさを痛感したのは、研究開発本

部の頃です。P&Gのよ

うな外資系メーカーの製品は、海外製品を少しだ

けパッケージを変えてそのまま日本市場に投入していると思われがちです

が、感度の高い日本の消費者にはそのような製品は受け入れられません。

日本の家庭環境や日本人の好みをよく理解し、それに合わせて処方や香り、パッケージの形などを

変えたり、新たな使い方を提案したりして初めて喜んでもらえる製品を届けられるのです。

そのためには世界中の担当者や電話会議で日本のニーズを共有します。

私は英語が得意でなかったうえ、当時の日本のビジネス規模はまだ小さく、あまり話も聞いても

く、日本の代表として参

加しているのだから黙ってはいけないと自らを励まして臨んでいました。地道に努力を重ねた結果、サポートしてくれる仲間も増えました。グローバルブランドの「フリーズ」の日本市場導入など、新たな製品を生み出す喜びも数多く体験できました。

入社10年目で同期と社内結婚し、第1子を妊娠

・出産。その後も新ブラ

ンド開発に携わり、管理職に昇進しました。育児の経験を通じて、周り

自分と同じような理解・知識をもっているわけではないことを心の底から理解することができ、他者に対して辛抱強くな

たと感じています。もちろん難しいと感じることもありますが、みて学ぶを徹底しました。逆に化学の知識などへの理解を深め、メンバーに製品や仕事への誇りを感じてもらえればと思

っています。将来は「高崎のお母さん」を目標に

研究開発から始まったキャリアの中で得た多く

の知識や経験、そして消費者理解への情熱が常に私の根底にあります。それを自分だけでなく、より多くの仲間と共有したい、今までの経験で貢献したい、恩返ししたいと思うようになりました。

P&G ジャパン 製造統括本部  
高崎工場 セクションヘッド

## 村上 純子氏



むらかみ・じゅんこ 1990年P&G・ファー・イースト・インク(現P&Gジャパン)入社。開発担当として基幹ブランドの日本市場導入に携わる。16年から現職。2児の母。